



Title	職場・業務紹介 附属牧場
Author(s)	尾島, 徳介
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 2, 54-54
Issue Date	1995-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35295
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_p54.pdf



附属牧場 尾島 徳介 (技術部 環境・飼育系 家畜飼養班)

当牧場は総面積 470haを有し、牛約 180頭、馬74頭（北海道和種馬60頭）を飼育しています。現在の職員は助教授1名、事務掛長1名、技官8名です。

私がこの仕事に就いた理由は小さな頃から動物を扱うことが好きだったからです。私は進学を希望してましたが、公務員試験を受けてみたところ、見事合格しました。そして二次試験の前日に担任の先生に「進学希望のことを言うと落とされるよ。」と、言われましたが、私はそのことを正直に書いたうえに自分が行きたいところをはっきり言いました。無事二次試験も合格しましたので、早速農林省の新冠種畜牧場に電話をしたら、「今年は採らない。」と言われ、他のところにも電話をしましたが、担当の人がいませんでした。そのような時に北大から電話がかかってきたので私はこの職場に決めました。

当牧場の一年間の仕事内容を紹介します。春は生命誕生の時期ですが、仕事が一番きつい時期でもあります。牛の場合は異常がないか確かめて、もし逆子であれば早く介助してやります。そうしないと死んでしまいます。こうして生まれてきた子牛は体重を測り、左耳にタック（番号札）をつけます。右耳にはタックを紛失したときに番号わかるように入れ墨をしておきます。馬の場合は（軽種馬）来年の秋の二才馬のセリ市で高額な金額で取引されて、牧場の貴重な収入源なので特に気を使います。生まれてきた子馬は体重、体高、胸囲、管囲を測りさらに特徴（顔、首、胸前、後足内側後方の渦巻の有無）を見ます。このように気を使うことが多いので宿直者は夜もおちおち寝られません。北海道和種馬は自然分娩で事故は少ないので、計測と特徴を見るぐらいですみます。一方で分娩の終わった軽種馬は約一週間後に交配します。このように分娩がつづいてる間も採草地の暗渠排水堀、肥料散布、耕起などの作業も同時にやっていかなければなりません。また、5月中ごろには放牧が始まるため、放牧地の柵の見回り、補修をして牛を放牧します。同時に種牛も放牧して交配をします。このあとに牛舎周りの掃除、パドックの糞尿片付けなどをします。

夏は牧草の刈り取りシーズンです。刈り取った牧草は 2cmぐらいに切断してサイロへ入れます。一方乾草作りでは刈った草をテッターという機械で反転します。また、この時期は天候不順が続くことが多いので少しでも良い草を食べさせようと努力しています。7月中ごろには、学生実習が二週間行われます。このときの牛の体重測定で去勢、除角を行います。この作業は牛が暴れるのでとても危険です。8月に入ると馬市があります。

秋になると夏刈り取った牧草が伸びてくるので、それを刈り取り二番牧草を収穫します。この牧草は主に子馬や子牛に与えます。こんどは一年間の最後の大仕事、デントコーンの収穫があります。これも牧草と同じように 2cmぐらいに切断してサイロへいれます。このようにして収穫したものを『グラスサイレージ、コーンサイレージ』と言います。また、収穫の終わった採草地から堆肥と化学肥料を散布して、プラウで反転します。11月になると放牧地の草がなくなってくるので、下牧します。この時に離乳も行います。同じように和種馬も離乳します。この作業は子馬が暴れるので危険です。この子馬は人に慣れるように、夜は厩舎の中に入れて昼間は外につないでおき調教します。

冬は特別な仕事はありませんが、2月の中ごろに学生実習があります。この時にも和種馬の調教をします。

このようにいろいろとあり、まだ多少はなれてないところもありますが、楽しい職場でもあるので退職するまで、当牧場で働いていきたいと思っている今日この頃であります。